

セッション14：大学の国際化促進のためのURAとは  
～雇用、育成、ネットワーク～  
京都大学学術研究支援室 杉原 忠

ゲスト：日本アーツ株式会社マーケティング本部  
酒井裕典（さかいやすのり）参与

大学の国際化促進に対する  
URAの貢献は  
「英語が話せる」ことだけなのか？

問：「国際化」と「グローバル化」、どのように使い分けていますか？二つの違いは？

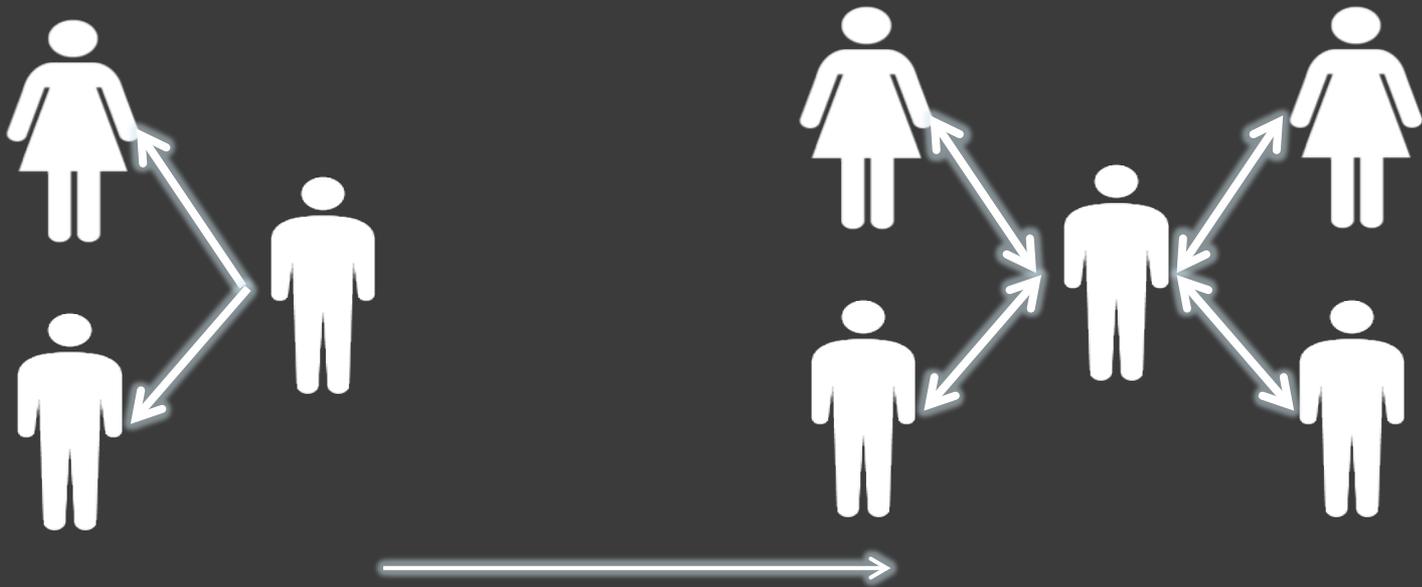
- ◎ URAという立場で使う際には、二つの言葉の違いを特に気にしていない。学術的には使い分けている。
- ◎ 国際化＝海外の多様な国・地域・文化に対して開かれており、システムが対応し、またコミュニケーションが可能な状態。グローバル化＝その事象が国内だけにとどまらず、広く国内外と関係しながら進行、発展している状態
- ◎ 国際化は日本からの視点、グローバル化は世界共通の視点

元トヨタ自動車広報担当部長  
クレーブ（株）土井正己社長から



- ◎ 国際化とは、日本から世界を理解すること。ビジネスで言うと、輸出業務。一方向（one-way）
- ◎ グローバル化とは、現地を良く理解し、現地を巻き込んでの活動（ビジネス）。双方向（two-way, bi-directional）もしくは多方向（multi-way）

# 国際化とグローバル化

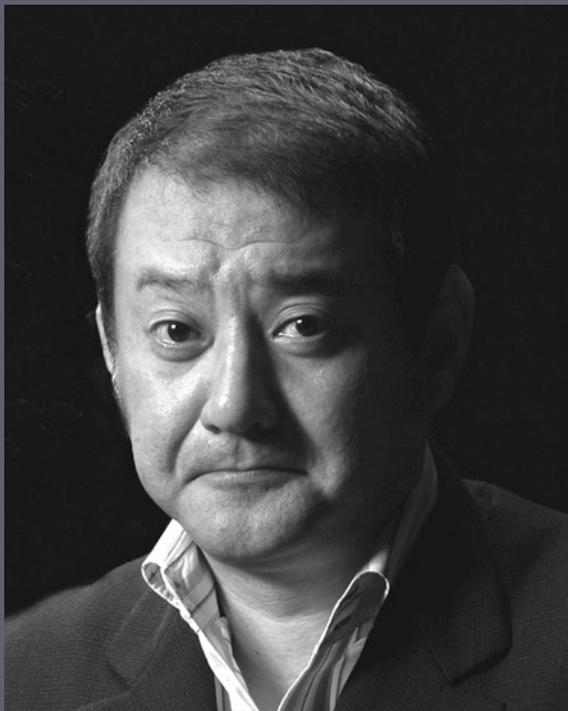


国際化

プラザ合意 (1985)

グローバル化

# SHARP グローバル化への道のり



Designer 酒井 裕典

# Global communication design







United States







# まとめ

- ◎ 大学が目指すべきはグローバル化
- ◎ URAができること = 「交渉」のデザイン、コミュニケーションのデザイン？
- ◎ 言語に過度に依存しないコミュニケーション = コンセプトの可視化
- ◎ 相手目線、現地目線に立った上での交渉戦略のデザイン
- ◎ 文化的背景の事前インプット